

福島県
教育委員会
教育長賞

未来のふるさとを SDGs の先進地に

福島県いわき市立桶売中学校 3年

ヤナイ モモカ
矢内 萌々夏

「SDGs を、流行のファッションにしてはいけない」以前インターネットでこのような意見を目にしてから、「じゃあ、どうすればいいんだろう」と考えていた。そんな中、今年になって学校で、SDGs の講座を受けたり、新聞記事を切り抜いたりする活動が始まり、より深く考える機会が増える中で、今では私は、福島を SDGs の先進地にするべきだと考えるようになった。理由は2つある。

1つめは、私の住むいわき市川前町が、自然豊かで、また、高齢化率の高い地域だからだ。100 km²以上ある土地に人口は 850 人余り。人口密度は 8 人ほどだ。住民の多くはお年寄りで、小中学生は全員で 6 人。まるで自然から居場所を与えられ暮らしているような感じがする。お年寄りと自然に囲まれて暮らす私にとって、SDGs の「誰一人取り残さない」という考え方は切実だ。そして今後高齢化が進む日本で、この「誰一人取り残さない」という考え方は重みを増すだろう。だからこそ、福島が SDGs の先進地になることの意義は大きい。2つめは、私が 3 歳の時に発生した原発事故による「福島＝原発事故」というイメージを克服したいからだ。当時のことはよく覚えていないが、住み慣れた家から他の場所に避難した人も多かったという。先日訪れたコミュタン福島で学んだのだが、原発からの「放射性物質」は、双葉郡と隣接する川前町にも影響を及ぼしていた。しかし私が福島に住み続けているように、現在、

その影響はほとんどない。それでも「福島＝原発事故」というイメージが風評被害を生んでいるという。であるならば、福島イメージを、SDGs で上書きすればいい。SDGs のファッションとしての側面を逆に利用して、「福島といえば、SDGs」こんな未来を目指すのだ。

では具体的にどうすればいいのか。私の提案は、「SDGs」×「地域おこし協力隊」だ。県内の協力隊員の方々に、地域で取り組んでいる地域おこしの取り組みを、SDGs との関連で PR してもらうことで、県内各地に SDGs の輪を作るのだ。例えば、川前町では現在、町の方たちが菜の花畑を広げ、「菜種油」作りを行っている。米を作らなくなった田んぼに種を植え、春には一面に黄色いじゅうたんが広がっており、多くの人が目を引くような観光資源となっている。その後、油を抽出して「菜種油」が完成する。そしてこうした取り組みを、協力隊員の方が、市内外に PR してくださっている。そこでこの PR を、SDGs との関わりから行ってもらいたい。菜の花畑で考えると、まず、植物が光合成をして CO₂ を吸収している。油は地域の人々の生活の糧になっている。さらに、地域のお年寄りの生きがいや、他地域の人との交流も生んでいる。まさに、「一石四鳥」だ。SDGs の目標では、「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「住み続けられるまちづくりを」「陸の豊かさを守ろう」と結びつき、「誰も取り残さない社会」に繋がっていると思う。

もちろん私自身も地域の方々にもっと SDGs を伝えていきたい。そして、大好きな町で、大人になっても、今のような素敵な環境で暮らすために、自分から行動を起こしたい。